

福翁百話 (八十一)

空氣は飲食よりも大切なり

福澤諭吉

衛生の爲めに飲食物の良否は固より大切なるも、一日三度の定食に反し、空氣の呼吸は晝夜片時も止むことなくして、身體に直接の關係は飲食の物に異ならず、其良否の影響も亦同様にして衛生上に感ずる所は、更らに大なるを知る可し。或は都人士が、田舎の生活法を見て、不潔なりと云ふものあれば、其不潔は唯目撃して然るのみ少しく、事實に注意するときは、都鄙相比較して、田舎を却て清潔なるを觀見す可し。百姓の生活固より粗末にして、家の掃除も行届かず、飲食は臭くして、衣服は穢し、今更ら云々までもなき様なれば、戶外に出るも一歩、滿目の塵埃、汚濁無垢にして、新鮮の空氣に呼吸す可し。然るのみならず、百姓の常職は山に行き、畑に出で、男女老少共に家に居るは、稀にして、戶外の仕事を忙しければ、所謂不潔の家に眠食するは、年中の一半に足らず、況んや其不潔の家と云ふも、唯目に見て不潔のみ家の中に流通する空氣は、則ち新鮮にして之を呼吸すれば、他の飲食等の粗を償ふて餘りある可きに於て、之を之の都下の住人が紅塵白土の中に家を作りて、晝夜二十四時間塵の中起居し、塵の中に往來し、塵の中に調理したる物を食ひ、塵の中に纏れたる衣服を着け、身體の内、外、皆汚濁を以て蔽はるるものに比すれば、同年の論に非ず。試みに其紅塵なるもの性質を吟味すれば、都下無数の人の呼吸、その身體の蒸發を始めて、便所、下水、掃蕪、牛馬糞、魚肉の腐りたるもの、其骨髄の棄てたるもの、米の洗汁、風呂の洗水、病人の排泄物、金刺、毒物の塵埃、傳染病者の吐下物もあれば、梅毒、瘧疾の瘴氣もあり、糞桶の溢るるものあれば、塵埃の掃くものあり、千差萬別種々無量の汚穢不潔物が、或は濕氣にむれて蒸發し、或は太陽に乾燥して、風に飛揚し、陰々々々、半日を蔽ふもの、即ち都下の塵埃なり。市中に往來して、黒の衣裳が白くなり、耳鼻口の汚れて不愉快と感ずるも、家に居て、縁側に陣子に又視なきに埃の溜るると云ふも、都下紅塵の風を吹かるるものを知る可し。左れば都人が、金衣玉食し、大層高麗に住居すと云ふも、其衣食住は、内中の衣食住にして、金玉は唯是目目に映する所の金玉のみ、一呼一吸開閉なく、四六時中、塵埃に身を關連して、生命の泉源とも云ふ可き空氣の性質如何を吟味して、化學上に醫學上に其害毒を明にし、たらんに、は健康として、呼吸するの外なし。人間の呼吸果して飲食に等しくして、一種無上の常食なりとすれば、都下の住人は、富豪大家と雖も、百枚の門簾物を常食にして、土百姓の食物の清潔無毒なるに及ばざるものと、感じしと云ふ可し。是亦地方に、衛生の不自由なるにも、拘はらず、病人の少なき原因の一箇條なる可し。衛生家の宜しく注意す可べき所のものなり。

外交機密費

外交機密費の如何なる所なれば、其の如何なる所なり。...

救免者懺悔談 (十)

救免者懺悔談 (十)

東京府下出生士族 高山真太郎

實際に見る可きもの多し。中にも外交の一事の如何なる所なり。...

夫れから右川崎で警役に就てその中階期になつて放免になり、...

られたら先へたつたり、れから校長の家へ、...

外交機密費

外交機密費の如何なる所なれば、其の如何なる所なり。...